アーカイブ室新聞　(2008 年 7 月 29 日　第 48 号)

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

＊　PMC 望遠鏡フロアに除湿器を仮設置

7 月 28 日に PMC（自動光電子午環）望遠鏡フロアにモノクロ、マン座標測定器などを搬入した記事を書いた。マンの測定器がネジを使った座標測定器であることも書いた。このマンの器械を保守している畑中さんが一番気にしていることはネジ、レールの錆びることである。旧図書庫に置いてあったときにも除湿器が常時運転されており、入江さんが毎日水を捨てていたそうである。PMC 望遠鏡フロアに置かれたマンの座標測定器は広い空間に置かれてずいぶん扱いやすくなったと畑中さんには喜んでもらったが、湿気のことは何とかしなければならない。そこで望遠鏡フロアに除湿機を入れることを約束した。

PMC の望遠鏡フロアは旧図書庫に比べるとその何倍も体積がある。PMC の望遠鏡フロアの床面積は 10x16m であるが、中央のスリット部分は 2m 大きくなっていて、かまぼこ型のドームの内側の高さは 10m ある。大雑把に言って、望遠鏡フロアの体積はざっと 1500 立米ある。この空間の除湿が必要である。

現在、望遠鏡フロアの下の空間に除湿器 2 台が置かれていて、3 日もすれば水のタンクが一杯になる。この下の階の高さを 3m とすれば、約 480 立米である。単純に計算して望遠鏡フロアでは 2 台のこの除湿機で 1 日しかもたない計算になる。

望遠鏡フロアの下の階は、ほぼ完全に閉じた空間のように見える。それで 2 台の除湿機で、3 日で水タンクが一杯になっていた。さて、湿度を嫌う測定器を搬入したからにはすぐにも何等かの手を打つ必要があった。除湿器を購入する件はどこにも諮っていない。そこで、しばらくは階下にある 2 台の除湿機の 1 台を望遠鏡フロアに移設して、水を捨てる回数で当座は凌ぐことにした。さっそく西山さんの力を借りて 1 台の除湿機を望遠鏡フロアに移動した。どの程度水が排出されるかはやってみないと分からないが、望遠鏡フロアは通風孔がまだ塞がれていない。これでは屋外で除湿機を運転しているようなものだが、何もしないよりはよかろう。写真 1 が望遠鏡フロアに設置した除湿器である。

パーキンエルマーの写真濃度測定器もある意味では座標測定器でネジが使われている。ナルミのマイクロフォトメーターも乾板送りはネジが使われている。かっての天文学で使われた測定器は精密ネジの器械といってもよい。このネジの精度を保つことがよいデータを得る手段であった。畑中さんが定年後も 1 週間に 1 度、マンの座標測定器に給油を行いメインテナンスをしているのはそのためで、いつでも使えるようにしているのである。

アーカイブ室新聞 47 号に載せなかった展示品に分光光度計、太陽のカルシウム K ライン分光器、虎尾先生に贈呈され、ご遺族から提供された PZT の模型の写真を載せておく。写真 2 が分光光度計、写真 3 が太陽カルシウム K ライン分光器と PZT の模型である。

写真　1　望遠鏡フロアに設置された除湿器

写真　2　水沢から譲られた分光光度計

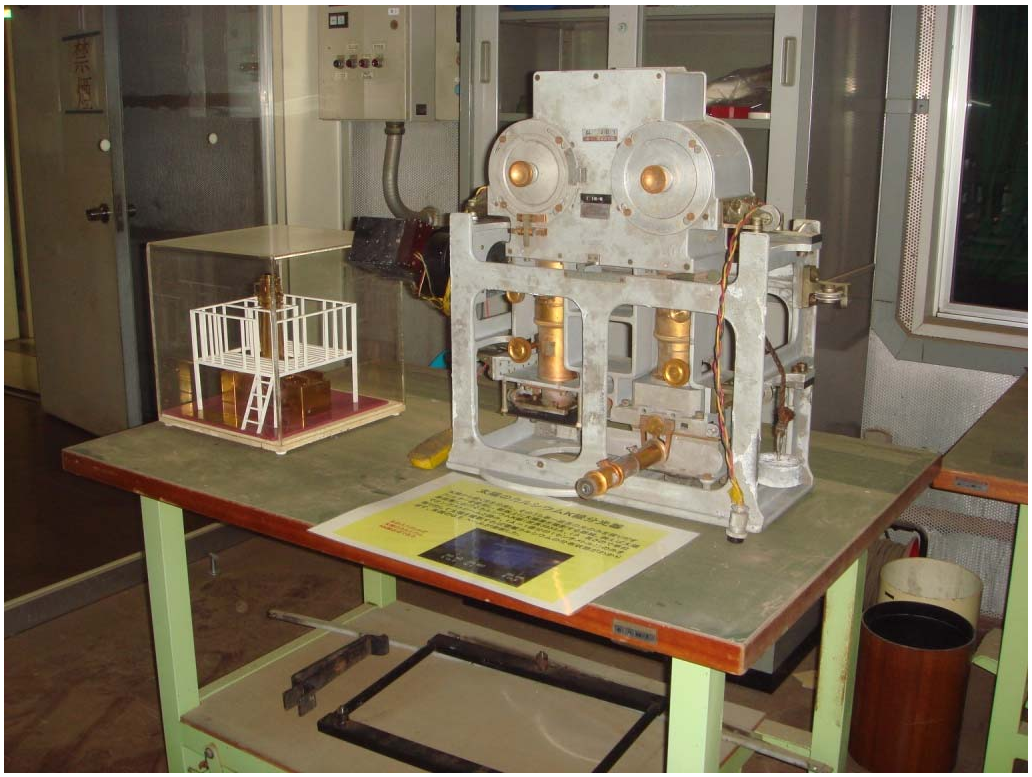

写真　３　太陽 Ca-K 線分光器と PZT 模型